

## ☆6月の特集☆

<一般書>

☆「食と農-育てる・収穫する・食べる」

<児童書>

☆「マザーズタッチ文庫」特集第2弾

—パパもママも読み聞かせを—

## ★新しい本の紹介★

一般書

農家が教える野菜の収穫・保存・料理  
じょうずな庭作り、花作りのヒントが探せる本  
100円グッズでプチ！ガーデニング  
食品保存早わかり便利帳  
野菜おかず作りおき  
タネのとり方もわかる！おいしい野菜づくり  
農家が教える至福の漬物  
小さい農業で稼ぐコツ  
劇場  
成功者K  
にじいろガーデン  
ひとめぼれ

西東社  
主婦の友社  
竹田 薫  
ホームライフセミナー  
岩崎啓子  
北条雅章  
農文協  
西田栄喜  
又吉直樹  
羽田圭介  
小川 糸  
畠中 恵

児童書

アントンせんせい  
しりとりにあそびえほん  
ぞうきばやしのスもうたいかい  
ピン・ポン・バス  
うんこ日記  
おうさまジャックとドラゴン  
とりをよぼう  
原寸大 恐竜館  
おべんとうバス  
モアナと伝説の海

\*この他にも多数取り寄せております。

電話で予約できますのでお尋ねください。

西村敏雄  
石津ちひろ  
広野多可子  
竹下文子  
村中李依  
ピーター・ベントリー  
大久保茂徳  
富田幸光  
真珠まりこ  
水上じろう

## 6月の休館日

4日(第1日曜日) 18日(第3日曜日)

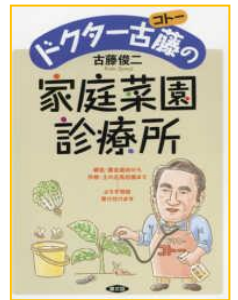
★休館日の本の返却はブックポストへお願いします★

## ◇今月のオススメの一冊◇

『ドクター古藤の家庭菜園診療所』

古藤 俊二／著 農文協

J A 資材センターのカリスマ店長(ドクターコート)が、野菜づくりの疑問に答えます。手作り肥料や資材、独創的な病気・害虫退治から作物・土の元気回復までよろず相談に応じた情報も満載。



『ミミズのふしぎ』

皆越ようせい／作 ポプラ社

ミミズには知られざる不思議な世界があった！ドーナツみたいに首に巻き付く卵、体の固い毛。光るミミズや青いミミズ。びっくりするようなミミズの秘密が満載の写真絵本。



## ☆図書室利用案内☆

開館時間

午前9時～午後5時30分

休館日

・第1日曜日 ・祝祭日  
・第3日曜日  
・年末年始

図書の出借

10冊まで

視聴覚資料

3点まで (DVD・CD・ビデオ)

貸出期間

3週間

\*どなたでも利用できます！



# お知らせ

## ミニ展示コーナーの紹介

全国の書店員が選んだ いちばん! 売りたい本  
2017年 **本屋大賞 特集**

大賞	『蜜蜂と遠雷』	恩田 陸
第2位	『みかづき』	森 絵都
第3位	『罪の声』	塩田 武士
第4位	『ツバキ文具店』	小川 糸
第5位	『桜風堂ものがたり』	村山 早紀
第6位	『暗幕のゲルニカ』	原田 マハ
第7位	『i』	西 加奈子
第8位	『夜行』	森見登美彦
第9位	『コンビニ人間』	村田沙耶香
第10位	『コーヒーが冷めないうちに』	川口 俊和

## 移動児童館&図書館のご案内

毎月一回、図書館を利用出来ない遠方の地域のみなさんのために、まるごと自然館へ移動訪問して、本の貸出をしています。ぜひご利用くださるようお願いします。絵本・児童書・一般書をお持ちします！  
次回は、6月29日(木)午後4時～5時

# 絵本de 11-11-11

なるせ保育園 園長 **新田 毅さん** のおすすめ絵本

## 「にじいろのしまうま」

こやま 峰子/作  
やなせたかし/絵  
金の星社

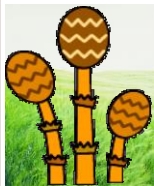
### 突撃インタビュー



- ・この本をとえるなら?  
→気持ちが虹色になります。
- ・本をいつ読みますか?  
→休みの日に、家でゆっくりした気分です。
- ・あなたにとって読書とは?  
→清涼剤

表紙のキレイさに、偶然手に取った一冊でした。虹色のシマウマが、仲よくなった動物たちの困っている姿を見て、自分の色を一つずつ使って森を元通りにしていくお話しです。やさしい気持ちになれるし、感謝の気持ちを伝えたいくなるおすすめの一冊です。

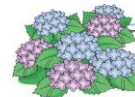
ありがとうございました♪



## 読みかたりグループ

# 「つくしんぼ」コーナー

東成瀬村図書館ボランティア



つくしんぼおはなし会

6月3日(土)

午前 10:30~11:00



## 会員のつばやき

副代表 杉山 アオイさん

子どもの頃、エーリヒ・ケストナーの「ふたりのロッテ」「エーミールと探偵たち」などの作品が大好きだった。その中で、学生になってから買ったのが「飛ぶ教室」だった。最近、読み返そうと思って探していたけど、見つからなかったのを、ブックオフで文庫本を手に入れた。寄宿学校で暮らす少年たちの物語だ。前書きの中でケストナーが、ある本を読んで怒っている。その本の中では、子どもはいつもはしゃいでいて、いつも幸せで仕方ない、という風に描かれている。でも現実には、子どもにだって、悲しいこと、不幸なことはある。そして子どもの涙が大人の涙より小さいことはなく、しばしばずっと重いものだ、だから、大人たちは、自分が幼い頃のことを決して忘れてはいけない、とケストナーは言う。子どもの頃の私がケストナーの本に夢中になったのは、彼が子どもの悲しみや喜びについて、本当に知っている人だったからなんだ、と、改めて思った。

